

若手のキャリア支援の一環として「天文学と社会を繋ぐ職種の人材公募情報」を運用しているので、今回はそのご紹介を。

高梨直純（東京大学）／平松正顕（国立天文台）

8月の終わりも近い志賀高原で、日本天文教育普及研究会が主催する第33回天文教育研究会（要は年会）に参加してきました。月日が流れるのは早いもので、私たちがこの会に出入りするようになってから早15年。ゴーンさん（正確には日産科学振興財団）からいただいた助成金で「アストロノミカル・トイレットパーペー」と「あすとろかるた」を作りました、というのがこの会での最初の発表だったように記憶しています。宇宙図を作るために根回しに奔走したのも、確か2006年の年会の時。のびのびとフリーダムに活動していた私たちを面白がって、いろいろとかわいがって下さった皆さんに感謝しないといけません。

ネ土会人になって改めて感じるの、全国各地からここに発表しに来る学生さんたちの一所懸命さです。夕食の時間も忘れ、楽しそうに議論に明け暮れる彼らの姿はただただ眩しく、頼もしさも感じ

ます。馬齢を重ねた身ではありますが、私たちもそんな彼らにまだまだ負けるわけにはいきません。ライバルであり、かつ、仲間でもある若い世代の皆さんののびのびと活動できるよう、かつての私たちがそうしてもらったように、今度は私たちが彼らを応援する側にまわっていかねばいけないと改めて思ったのでした。

しかし、いったいなにかから始めるのが良いのでしょうか。すぐにできる支援ということでまず私たちが考えたのが、ネット上に散らばっている人材公募情報を集約して提供すること。ルーチンワークとして科学館やプラネタリウム、公開天文台などの職員さんや、研究機関や大学などの広報・普及職、さらには最近はやりの科学コミュニケーション系の研究職などの公募情報を収集し、天プラで運営する「天文学と社会を繋ぐ職種の人材公募情報」(www.tenpla.net/jobreg/)



今回の年会では、若手がどうキャリアを作っていくかといった話をしてきました。中堅っばい！

に登録して、広く一般に提供するようにしています。覗いてみていただければ分かりますが、2017年12月に運用を開始してから現在に至るまで、100件を超える人材公募情報を掲載することができました。役立ていただけているのなら嬉しいのですが、どのような公募情報があるのかということ自体にデータとしての価値があると考えていますので、皆さんもなにか公募情報に気がつかれましたらぜひ情報をお寄せ下さい。だい！